

## VI. 資料：研究協力機関紹介

学校概要	学校名(学校種)	福井県立盲学校(盲)	
	設置年月日/校長	大正2年6月10日 校長 小谷正典(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	幼(1名), 小(6名), 中(8名), 高(20名)	
	教職員数(職種)	79名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習助手, 講師, 寄宿舍指導員, 事務長, 主任, 主事, 栄養職員, 校務員, 調理員, 自動車運転手, 汽かん士)	
	所在地 電話・ファックス URL	〒910-0825 福井県福井市原目町39-8 Tel.: 0776-54-5280 Fax.: 0776-54-5289 <a href="http://www.ainet.ed.jp/fukumou-HP/top.html">http://www.ainet.ed.jp/fukumou-HP/top.html</a>	
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (◎)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (◎)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (△)      6. 研修機能 (△) 7. 施設設備開放 (○)      8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	ー学校全体で取り組むセンター的な動きー 本校は大正2年に創設され, 平成15年度には創立90周年を迎えた。視覚障害児者の教育に取り組むのは自分たちであるという自負が伝統として受け継がれている。校内にセンター的機能を専門に担う機関はないが, 各校務・学部において, 様々な取り組みがなされている。地域に生活する障害のある幼児から成人に対する教育相談活動(個別指導, 在籍園・校へのコンサルテーション, 保護者の相談, ピアカウンセリングなど), 小中高校の総合学習などにおける理解教育への協力, 卒業生の様々な活動への支援, ボランティアの養成などである。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	センター的機能に関わる様々な活動は, 要請される状況に応じて, 各校務(図書研究部, 教務部, 進路指導部, 生徒指導部, 教育相談部)および学部(幼稚部, 小学部, 中学部, 高等部)で適宜に対応している。 ○相談機能…教育相談, 就学相談, 入学相談 ○情報提供・理解啓発機能…学校公開, スクーリング, 学校訪問受け入れ, 研究協力, 就学指導委員会等への協力, 教職員への研修協力, 理解啓発広報, 交流活動, 地域医療支援 ○教育支援機能…ゲスト・ティチャー派遣, 学習指導支援, 卒後技術生活支援, 自立活動支援, スポーツ活動支援, 文化活動支援, 対外的研修支援, 研修会の開催 ○施設設備提供機能…体育館など開放, 教材教具・器具など貸し出し ○専門性向上機能…職員研修, 教材教具・器具の整備充実, 情報の集積	
	教育相談	直通電話	ありません
	受付・時間等	月～金(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く), 要予約 連絡先 教育相談部もしくは進路指導部	
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	ありません	
担当者からの一言	視覚障害を持つ人は, 乳幼児も成人もそのライフステージに応じて, 様々な支援が必要になります。本校では本人とご家族, 関係する方々に対して, それぞれに応じた対応を, 時宜を失しないよう臨機応変に行っています。よりよい支援が行えるように今後も校内の体制作り, 教職員の指導力向上に努めていきたいと考えています。 (荒木 良子)		

学 校 概 要	学校名（学校種）	神奈川県立平塚盲学校（視覚障害）	
	設置年月日／校長	明治42年12月9日 鈴木文治（平成15年度）	
	幼児児童生徒数	幼（8名）、小（7名）、中（6名）、高（50名）	
	教職員数（職種）	92名（校長、教頭、教諭、養護教諭、実習教諭、講師、看護師、介助員）	
	所在地 電話・ファックス URL	〒254-0047 神奈川県平塚市追分10-1 Tel. : 0463-31-0948 Fax. : 0463-31-5996 http://www.scn-net.ne.jp/~khm948/	
セ ン タ ー 的 機 能 に 関 す る 取 り 組 み	実施している センター的機能の内容	1. 教育相談機能 (○)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (○)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (○)      6. 研修機能 (○) 7. 施設設備開放 (○)      8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	乳幼児から成人まで幅広い相談があり、相談者や相談内容に応じて、学校全体で対応している。  視覚障害に対する支援においては、教育だけではなく、医療や福祉、労働に関する諸機関と緊密な連携をとるようにしている。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	相談支援委員会（平成13年度より設置）特別委員会に属する 各学部1名および関心のある職員で構成しており、人数は固定していない。平成15年度は16名。  校内組織 学部（幼、小、中、高） 部会（教務、生徒指導、給食、進路指導、保健安全、図書視聴覚） 委員会（学校評議員制度、研究研修、自立活動、寮務、自立活動） 特別委員会（事故防止、相談支援、防災対策、保健、衛生、校舎等整備） 研究会（教育課程、学部・学科、教科・領域）	
	教育相談	直通電話	なし
	受付・時間等	随時	
	センター機能に関する公表資料（過去3年間）	第22回 アジア・太平洋特殊教育国際セミナー 視覚障害支援センターとしての盲学校の役割 ー通常の学校で学ぶ視覚障害のある子どもに対する支援を中心に（神奈川県の事例）ー	
担当者からの一言	今後とも、視覚障害に関する専門機関として、学校全体で相談支援に当たっていきたい。 (工藤 伸一)		

学校概要	学校名(学校種)	福井県立ろう学校(聴覚障害)		
	設置年月日/校長	大正4年3月11日 林 俊明(平成15年度)		
	幼児児童生徒数	幼(13名), 小(9名), 中(6名), 高(7名)		
	教職員数(職種)	64名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習教諭, 実習助手, 寄宿舎指導員, 講師, 舎監, 事務長, 主任, 栄養職員, 校務員, 給食員)		
	所在地 電話・ファックス URL	〒911-0014 福井県福井市幾久町2-22 Tel.: 0776-24-5190 Fax.: 0776-24-5207 info@fukui-sd.ed.jp		
センター	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (◎)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (◎)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (○)      6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (○)      8. その他 ( )		
	本校のセンター的機能の特色	一地域のろう教育のセンターを目指して 県内の聴覚に障害がある乳幼児, 幼児, 児童, 生徒と保護者および卒業生や地域に対しての教育相談や情報提供等の地域支援の充実を目指しています。以前から, 保護者のニーズに応じた教育相談や乳幼児教室, 地域のニーズに応じた交流学習や研修などの地域支援を進めてきました。 近年, 新生児用のAABR(自動聴性脳幹反応)検査装置の導入により, 聴覚の障害が早期に発見されるようになり, 最早期教育の場としての乳幼児教室の充実が望まれています。また, 早期発見および早期教育の充実と補聴器の発達により, 通常学級に在籍している聴覚障害の児童・生徒が増えています。そこで, 小・中学校への通級指導教室や教育相談等の支援がますます必要になってくると思われます。また, 卒業生や地域のニーズによる研修や相談等の充実も望まれています。ろう教育のセンターとして, それらの活動を充実させています。		
的機能に関する取り組み	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	教育相談機能	・電話による教育相談    ・来校による教育相談 ・保育園, 幼稚園, 小・中学校の依頼で行う訪問相談	教育相談部
		コンサルテーション機能	・きこえとことばの教育相談(夏期休業中, 本校と嶺南) ・教育機関, 医療機関, 保健所等との連携 ・インテグレート児補聴相談    ・卒業生補聴相談 ・卒業生の進路相談, 労働関係機関との連携	
		指導機能	・乳幼児教室    ・通級指導教室	担当学部
		研修機能	・乳幼児教室学習会    ・通級指導教室学習会 ・講演会    ・手話講習会 ・教育研究所や特殊教育センター等主催の研修協力 ・医療, 福祉, 教育関係機関からの依頼による授業参観や研修	図書部 教務部 関係学部 教育相談部
		実践研究機能	・交流学習(幼・小・中・高)    ・居住地交流(幼・小) ・福祉施設や聴力障害者福祉協会青年部等との交流(高)	関係学部 指導部
		情報提供機能	・医療, 福祉, 教育関係機関への学校概要説明 ・学校見学会    ・補聴器展示会    ・研究紀要送付	教育相談部 教務部 図書部
		施設設備提供機能	・グラウンド, 体育館, 会議室(聴力障害者福祉協会, 卒業生, 地域)	事務部
教育相談	直通電話	なし		
	受付・時間等	月～金(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く) 相談して日時等を決めます。		
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	特にありません。		
担当者からの一言	ろう教育のセンターとして, 保護者や本人, 地域と共に歩みながらニーズに応じた支援ができるように現在, 準備を進めています。 (島田 郁子)			

学 校 概 要	学校名（学校種）	福島県立大笹生養護学校（知的障害）	
	設置年月日／校長	昭和54年4月1日 穴澤由美（平成15年度）	
	幼児児童生徒数	幼（ 名），小（ 53名），中（ 30名），高（ 39名）	
	教職員数（職種）	91名（校長，教頭，教諭，養護教諭，実習教諭，講師，看護師，介助員）	
	所在地 電話・ファックス URL	〒960-0251 福島県福島市大笹生字俎板山182-2 Tel. : 024-558-8710 Fax. : 024-556-0416 http://www.ohzasou-sh.fks.ed.jp	
セ ン タ ー 的 機 能 に 関 する 取 り 組 み	実施している センター的機能の内容	1. 教育相談機能 (◎)      2. コンサルテーション機能 (◎) 3. 指導機能 (○)      4. 情報提供機能 (◎) 5. 実践研究機能 (-)      6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (○)      8. その他(交流教育・ボランティア)	
	本校のセンター的機能の特色	大笹生を中心とした地域社会に対して，可能な限り学校を開き，児童生徒と地域住民との交流を進め，知見を広め活気ある学校作りに努めると共に，特別支援教育に関するセンター的役割を果たすために設けたものである。 特に，平成14年度より実施している「ささっこ教室」は，まず親子がホッとできる場として機能することを目指したもので，現在もこの方針を変えずに実践している。相談者の住所，家族構成，しいては子どもの生育歴，障害名などを聞かないで，目の前にいる子どもだけを理解してかかわるこの実践は，利用者からも大変好評を得ている	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	<pre> graph LR     A[地域支援センター] --- B[ささっこ教室・教育相談 (11人)]     A --- C[地域支援 (幼稚園, 小・中学校等) (2人)]     A --- D[福島県養護教育センター地域相談室 (1人)]     A --- E[福島市就学指導 (3人)]     A --- F[交流教育・ボランティア (2人)]     G[学部] --- H[小学部]     G --- I[中学部]     G --- J[高等部] </pre>	
	教育相談	直通電話	なし
	受付・時間等	月～金（土・日曜，祭日，年末年始を除く） 原則として予約制	
	センター機能に関する公表資料（過去3年間）	1 「地域の諸機関と連携して進める相談支援とコーディネート」 発達の違いと教育 8月号，No.552，2003 2 「養護学校センター機能開発の試みー就学前教室「ささっこ教室」 養護学校の教育と展望 No.129，2003	
担当者からの一言	（高屋 隆男）		

学 校 概 要	学校名(学校種)	福井県立清水養護学校(知的障害) 福井県立福井南養護学校高等部清水分教室(知的障害)併設																															
	設置年月日/校長	昭和52年1月1日 北野範子(平成15年度) (平成10年4月1日福井南養護学校高等部清水分教室設置)																															
	幼児児童生徒数	小(14名), 中(8名), 高(6名)																															
	教職員数(職種)	清水養護学校36名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 講師) 福井南養護学校高等部清水分教室10名(教諭, 講師)																															
	所在地 電話・ファックス URL	〒910-3623 福井県丹生郡清水町島寺68-33-3 Tel.: 0776-98-3650 Fax.: 0776-98-3453 http://www.shimizu-sh.ed.jp/																															
セ ン タ ー 的 機 能 に 関 す る 取 り 組 み	実施している センター的機 能の内容	1. 教育相談機能 (○)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (○)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (△)      6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (○)      8. その他 (なし)																															
	本校のセン ター的機能の 特色	「一人一人を見つめ個を大切にされた教育」という教育方針のもとに実践を進めてきた結果、地域への働き掛けや、地域と結びついた教育活動が必然的に生まれてきました。こうした教育現場の中から生まれた活動を積極的に推し進めていくうちに、在籍児童生徒以外への支援要請の声が地域の方からも生まれ、現在は、「障害児のライフステージを支える地域ネットワークづくり」という、本校を中心としたネットワークを構築するための研究を重ねています。その結果現在では、居住地校交流の推進、地域の園・小学校への教育相談、行政や福祉施設と連携した進路ネットワークづくり、地域の専門家を招いての授業実践、医療機関と連携した研修会、学校開放講座の実施など幅広く、積極的に活動を展開しています。																															
	校内組織とセン ター的機能に 関する校務分 掌・機能分 担(担当者数)	<p>本校では、センター的機能に関する校務分掌は特設していません。従来から置かれている各部、学部が「地域ネットワークづくり」という目標のもと右表のような機能を担って活動を進めています。なお、15年度は教育相談係4名のうち3名は教務部に、1名は図書研究部に配属されています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>部・学部・人数</th> <th>センター的機能の機能分担</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">校 務 部</td> <td>教務部(8名)</td> <td>1, 2, 3, 4, 6</td> </tr> <tr> <td>指導部(7名)</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>保健部(7名)</td> <td>4, 6</td> </tr> <tr> <td>図書・研究部(9名)</td> <td>5, 6, 7</td> </tr> <tr> <td>進路部(6名)</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>庶務部(7名)</td> <td>4, 5, 6, 7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">学 部</td> <td>小学部(21名)</td> <td>5, 6</td> </tr> <tr> <td>中学部(12名)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>高等部(10名)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">各 種 委 員 会</td> <td>交流委員会(8名)</td> <td>4, 5, 6, 7</td> </tr> <tr> <td>健康・医療検討委員会(11名)</td> <td>4, 6</td> </tr> <tr> <td>パワーアップ事業推進委員会(15名)</td> <td>すべての総括, 運営委員で構成</td> </tr> </tbody> </table>			部・学部・人数	センター的機能の機能分担	校 務 部	教務部(8名)	1, 2, 3, 4, 6	指導部(7名)	7	保健部(7名)	4, 6	図書・研究部(9名)	5, 6, 7	進路部(6名)	6	庶務部(7名)	4, 5, 6, 7	学 部	小学部(21名)	5, 6	中学部(12名)	5	高等部(10名)	5	各 種 委 員 会	交流委員会(8名)	4, 5, 6, 7	健康・医療検討委員会(11名)	4, 6	パワーアップ事業推進委員会(15名)	すべての総括, 運営委員で構成
		部・学部・人数	センター的機能の機能分担																														
校 務 部	教務部(8名)	1, 2, 3, 4, 6																															
	指導部(7名)	7																															
	保健部(7名)	4, 6																															
	図書・研究部(9名)	5, 6, 7																															
	進路部(6名)	6																															
	庶務部(7名)	4, 5, 6, 7																															
学 部	小学部(21名)	5, 6																															
	中学部(12名)	5																															
	高等部(10名)	5																															
各 種 委 員 会	交流委員会(8名)	4, 5, 6, 7																															
	健康・医療検討委員会(11名)	4, 6																															
	パワーアップ事業推進委員会(15名)	すべての総括, 運営委員で構成																															
教育相談	直通電話	なし																															
	受付・時間等	木曜日13:00~16:00(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く) 相談内容, 状況に応じて随時対応																															
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	福井県特殊教育センター研究紀要第19号に福井県特殊教育センター研究発表会の発表内容の要約が記載。																															
担当者からの一言	個を大切にされた教育から生まれてきた地域へのさまざまな働き掛けが、本校の特徴です。 (笠島真須美)																																

学 校 概 要	学校名（学校種）	福井県立嶺南東養護学校（知・肢・病）	
	設置年月日／校長	平成10年4月1日 福岡俊孝（平成10年度）	
	幼児児童生徒数	幼（2名）、小（30名）、中（17名）、高（40名）	
	教職員数（職種）	78名（校長、教頭、教諭、養護教諭、実習教諭、講師、非常勤講師、看護師、介助員）	
	所在地 電話・ファックス URL	〒919-1147 福井県三方郡美浜町気山106 Tel. : 0770-45-1255 Fax. : 0770-45-1256 Reinanhigahi-sh.ed.jp	
セ ン タ ー 的 機 能 に 関 す る 取 組 み	実施している センター的機 能の内容	1. 教育相談機能（△） 2. コンサルテーション機能（○） 3. 指導機能（－） 4. 情報提供機能（△） 5. 実践研究機能（△） 6. 研修機能（◎） 7. 施設設備開放（○） 7. その他（－）	
	本校のセン ター的機能の 特色	<p>－養護学校の持つ自閉症についての専門性の生かし方－ 「自分たちにできることは何か」を改めて考え、本校の子どもたち、ひいては校外の子どもたちにかえるような実践をすすめている。総合養護学校の本校教員1人1人が全ての障害についての専門性をもつのは困難であり、自分の得意とする分野をそれぞれが学べるような体制作りをめざし、学校全体で様々な障害のニーズに答えられればと考える。本校には校外に出向いて教育相談を請け負うような部署はまだない。それぞれの仕事との関連性を含め、校務分掌の再編を検討中である。</p> <p>本校には自閉症を伴わせもつ（またはその行動特徴をもつ）子どもの数が多い。一方教師は、初任者や特殊教育免許を持たない人もいて、自閉症の子どもたちへの対応を「学びたい」と思っている。研修の希望も自閉症に関する物が多い。本校の教師にあるこのような状況は、他の学校や関連施設なども同じではないかとかんじたことや、保護者も同じように悩み、具体的な手だてを必要としているのではないだろうかということから、過去3年間自閉症に関する取り組みを中心に行っている。</p>	
	校内組織とセン ター的機能 に関する校務 分掌・機能分 担(担当者数)	図書研究部2名がこの研究に携わる。	
	教育 相談	直通電話	なし
	受付・ 時間等	木曜日 pm13:30~17:00	
	センター機能 に関する公表 資料（過去3 年間）	なし	
担当者からの一言		なし (高木 薫・長谷川直子)	

学 校 概 要	学校名(学校種)	福井県立嶺北養護学校(知)	
	設置年月日/校長	昭和53年10月 1日 中井孝夫(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	小(65名), 中(40名), 高(79名), 訪(4名)	
	教職員数(職種)	153名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習助手, 講師, 非常勤助助手, 寄宿舍指導員, 校務, 調理, その他)	
	所在地 電話・ファックス URL	〒910-0347 福井県坂井郡丸岡町熊堂3-36 Tel.: 0776-67-0100 Fax.: 0776-67-0099	
セ ン タ ー 的 機 能 に 関 する 取 り 組 み	実施している センター的機 能の内容	1. 教育相談機能 (○) 2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (ー) 4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (○) 6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (○) 8. その他 (ー)	
	本校のセン ター的機能の 特色	ー地域の保育士・教員と共に学ぶ研修センターとしての取り組みー 本校では, 平成14年度に相談部が設置され, 校外からの教育相談の窓口の役割を担っています。就学に伴う相談, 体験入学, 学校見学会などの他, 地域からの求めに応じて保育園や小学校への訪問相談も開始しました。 また, 平成13年度より, 夏季休業中に県外から講師を招いて「合同研修会」を行い, 校区内の保育園・幼稚園, 小・中学校, 療育機関に案内して地域の保育士, 教師の方々と共に研修と交流を深めています。併せて本校教育資源の展示や貸し出しも行い, 養護学校を知ってもらい, 利用してもらう機会になっています。また, 各学部ごとに行っている交流活動, ボランティア講座の開催などを通して地域とのつながりを深めています。	
	校内組織とセン ター的機能 に関する校務 分掌・機能分 担(担当者数)	●校内組織 学校長 — 教頭 — 教務部・指導部・進路指導部・保健部・図書研究部・渉外部・相談部・舎務部  ●センター的機能に関する校務分掌・機能分担 1 教育相談機能—相談部が担当 (相談部8名のうち3名が教育相談担当) 2 コンサルテーション機能—相談部が担当。 4 情報提供機能—相談部, 進路指導部が担当 5 実践研究機能—図書研究部, 各学部が担当 6 研修機能—図書研究部が担当ですが, 平成14, 15年度の合同研修会に関しては相談部 が中心になって企画・運営しました。 7 施設設備開放機能—渉外部, その他。	
	教育 相談	直通電話	なし
	受付・ 時間等	月～金(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く)	
	センター機能 に関する公表 資料(過去3 年間)	なし	
	担当者からの一言	教育相談に関しては, まだまだ件数は少なく, 養護学校が何ができるかを考えながら1件1件手探りでを行っています。地域からの“求めに応える”ことを基本姿勢とし, 無理せず少しずつ前進できればと思います。 (山田 摂雄・高橋 敏恵)	



学校概要	学校名(学校種)	福井県立福井南養護学校(知)	
	設置年月日/校長	平成49年4月1日 青木礼三(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	幼(0名), 小(46名), 中(38名), 高(89名)	
	教職員数(職種)	150名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習教諭, 講師, 非常勤助手, 寄宿舎指導員, 舎監, 栄養士, 調理員等)	
	所在地 電話・ファックス URL	(本校) 〒918-8034 福井県福井市南居町82 Tel.: 0776-36-7631 Fax.: 0776-36-7147 (分教室) 〒910-3623 福井県丹生郡清水町島寺68-33-3 Tel.: 0776-98-3650 Fax.: 0776-98-3453	
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (○)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (ー)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (○)      6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (ー)      8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	ー地域とのネットワークづくりをめざした取り組みー 本校は校区が広く児童生徒の居住地から離れているため, まず地域の人たちに本校の教育活動に知ってもらい理解啓発に努め, 地域でのニーズや課題を見つけ, 本校の教育資源を生かした活動を行っていく。主な活動として教育相談窓口の開設, 学校案内(学校の教育活動を紹介した冊子) 学校参観等を行った。また公開講座の案内を地域の幼稚園・小中学校・福祉関係などに配付して広報を行った。学校紹介のパネル展や児童生徒の作品展と児童生徒の居住地の施設や行事を活用した交流会で, 地域の人たちとかわる場を設けた。校内の子どもと保護者への対応を通して, 医療や福祉などの関係機関と連携を取るようになっている。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	14年度から教育相談部が設置され, 校務分掌は教務部, 図書・研究部, 指導部, 保健部, 進路指導部, 渉外部, 教育相談部, 舎務部に分かれている。センター的機能に関する活動を推進する業務は主に教育相談部が行っており, 12名で担当している。部長は授業担当時間が軽減されているので, 校外からの相談, 地域の保育所や小学校を訪問して担当者と子どもへのかかわり方などを一緒に考える活動, 地域との関係機関との協議会や市の就学指導委員会などへの参加は, 主に部長が行っている。学校参観, 体験入学, 地域交流会, 公開講座, 地域での学校紹介や児童生徒作品展などの活動は, 各担当者で企画して教育相談部員で運営している。機能ごとに役割を分担していない。実施に当たっては各学部や他の校務部の協力を依頼して進めている。教育相談部内での役割分担と他の校務部との連携や業務の分け方など校内の組織については今後の課題である。	
	教育相談	直通電話	なし
	受付・時間等	月～金(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く)	
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	なし	
担当者からの一言	センター的機能を果たしていくために校内に組織を作り, できることからまず始めることは大切である。始めたことから活動が広がり, どのように展開していくかを考えて対応するようになる。進めていく上で教職員の理解は必要で, 担当者が得た地域の情報や活動状況などを伝えたり意見を交換したりしていくことをしなければならない。 (原口 典子・上田 康彦)		

学校概要	学校名(学校種)	福井県立嶺南西養護学校(知・肢・病・訪)小浜分校(知)	
	設置年月日/校長	平成9年10月7日 杉左近孝夫(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	幼(1名), 小(24名), 中(15名), 高(25名)	
	教職員数(職種)	62名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習教諭, 実習助手, 講師, 非常勤講師, 介助員)	
所在地 電話・ファックス URL	〒917-0017 福井県小浜市羽賀67-49-1 Tel.: 0770-52-7716 Fax.: 0770-52-7710 (分校)小浜市深谷12-1-4 Tel.Fax.: 0770-58-0409		
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (△)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (△)          4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (－)      6. 研修機能 (○) 7. 施設設備開放 (◎)      8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	本校は、6年前に福井県の若狭地区における総合養護学校として開校して以来、知的障害の他、病弱、肢体不自由児も受け入れ、文字通り障害種を問わない「総合」の養護学校として歩んできました。また、幼稚部から高等部まで開設しており、さらに訪問教育も実施しているため、センター的機能を実施する上では、あらゆるニーズに対応できる有利な環境にあります。したがって、幼児期から青年期まで(特に本校の卒業生には卒業後も3年間)地域の関係機関との連携を図りながら、障害児者とその保護者による多様なニーズに応えられる体制を作ろうと目下取り組んでいるところです。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	<p>校内体制</p> <p>校長   教頭   相談部</p> <p>教育相談機能 — 相談部…電話・来校・出張による教育相談</p> <p>相談検討委員会</p> <p>〈考えられる各部の相談に関する内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談部… 障害児者全般</li> <li>教務部… 就学に関すること</li> <li>指導部… 生活指導に関すること</li> <li>研究部… 障害児への関わりに関すること</li> <li>進路部… 進路選択に関すること</li> <li>保健部… 各種疾病等に関すること</li> <li>庶務部… 地域との関わりに関すること</li> </ul> <p>指導機能 — 相談部 — 幼稚園・保育所の子どもの指導</p> <p>研究部 — 特別な支援を必要とする子どもの担当者との相互の相談及び授業研修</p> <p>コンサルテーション・実践研究機能 — 相談部 — 教育相談体系化推進事業連絡協議会参加</p> <p>保健センター等の依頼による訪問教育相談(3才児健診)</p> <p>進路部 — 若狭地区障害者支援協議会共催</p> <p>研修機能 — 研究部 — 講演会・研修会等の実施, および参加案内</p> <p>情報提供機能 — 相談部 — 「教育相談だより」等の発行</p> <p>保健部 — 県内及び全国の教育・医療機関, 各種施設等についての情報収集・公開</p> <p>研究部 — 専門図書や教材教具の貸し出し</p> <p>情報委員会 — ホームページの立ち上げ</p> <p>設備提供機能 — 庶務部 — 校舎・体育館・校庭の開放</p> <p>事務部</p>	
教育相談	直通電話	なし	
	受付・時間等	随時	
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	なし	
担当者からの一言	来年度から本格的に地域のセンター的機能を果たせるように、今年度ようやく校内体制を整えることができた。労働・福祉・医療・教育の各関係機関とのネットワークを活用して地域のニーズに応える実践をつみたい。 (大橋 導子)		

学校概要	学校名(学校種)	福井大学教育地域科学部附属養護学校(知)	
	設置年月日/校長	昭和46年4月1日 校長 荒井紀子(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	幼(0名), 小(18名), 中(20名), 高(17名)	
	教職員数(職種)	30名(校長, 副校長, 副教頭, 教諭, 養護教諭, 講師)	
	所在地 電話・ファックス URL	〒910-0065 福井県福井市八ツ島町1-3 Tel.: 0776-22-6781 Fax.: 0776-22-6776	
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (△)      2. コンサルテーション機能 (○) 3. 指導機能 (ー)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (○)      6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (◎)      8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	ー地域の情報収集・提供を中心に展開する取り組みー 教員数に余裕のない本校としては、本校の授業に差し支えない時間に行けることとして、以下のような取り組みを中心に行っている。 ・本校は、福井大学の附属学校であり、大学と連携しやすい立場にあるため、「LD, ADHD, PDD」についての専門的な情報を地域に提供していく学習会を福井大学の教授とともに取り組んでいる。 ・地域の情報を在籍する児童・生徒の保護者にアンケートしたり、教員が地域に出向いたりして集め、それらをまとめ必要な人に情報として提供できるものを作成している。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	教務部, 教育相談係の3名が主に担当。しかし、3名ともセンター的機能に取り組むための空き時間等は一切ないため、長期休業中や放課後にできることで、センター的機能が果たせそうなことに取り組んでいる。また、教育相談係だけが関わるのではなく、本校の児童・生徒を軸にして、学校全体で、学校外の機関や団体との連携・情報収集に取り組むようにしている。	
	教育相談	直通電話	なし
	受付・時間等	特に時間等, 決めていない。	
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	特殊教育総合研究所プロジェクト 福井県グループ研究協力校 福井県特殊教育センター 研究発表(平成13年度) 子どもをとりまく社会資源マップ(平成13年度)	
担当者からの一言	本校では、今後も、教職員の増員が見込めず、センター的機能を果たすための状況は苦しい。ニーズに応じた機能を果たしていくには、人的な余裕が必要である。このような状況であるために、長期休業中や放課後等の時間を利用して出来ることに取り組むたい。その一つとして、外部からのニーズの高い教育相談学習会を継続していきたい。本校には通常学級での担任経験者が多く、本校の特徴として通常学級への支援がキーワードになるのではと考えている。その他、学校外の社会資源とつながり、情報を収集して、必要な人たちに提供できる体制を整えていきたいと思う。(松田 啓子)		

学校概要	学校名(学校種)	福井県立福井養護学校(肢)	
	設置年月日/校長	昭和42年1月1日 三田松一郎(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	小(28名), 中(18名), 高(19名)	
	教職員数(職種)	96名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習教諭, 講師, 寄宿舍指導員, 事務職員, 栄養職員, 調理, 校務員, 非常勤舎監, 非常勤助手, 医療的ケア支援員)	
	所在地 電話・ファックス URL	〒910-0026 福井県福井市光陽3-2-33 Tel.: 0776-24-5194 Fax.: 0776-24-5198 http://www.fukui-sh.ed.jp	
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (○)      2. コンサルテーション機能 (△) 3. 指導機能 (△)      4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (△)      6. 研修機能 (○) 7. 施設設備開放 (○)      8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	一肢体に不自由のある人たちを支援する学校をめざした取り組み 本校は、肢体不自由教育の専門校です。今まで培ってきた専門性を活かし、校内外の肢体に不自由のある人たちやその保護者、関係者たちへの支援を教育相談活動を中心に行っていきたくて考えています。また、専門校として外に向けての支援を行っていくためには、校内における教育活動を今後も一層充実させ、他機関とも積極的に連携しながら取り組んでいくことを大切にしたいと思っています。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	平成16年度より校務分掌見直し委員会が立ち上げられ、センター的機能を果たしていくための組織の再編成を図る予定です。平成17年度より新体制での学校運営を目指しています。現在は、教務部内に教育相談係が設けられています。担当者は、教務部長を含めて4人です(小学部低学年1名, 高学年1名, 中学部2名)。	
	教育相談	直通電話	なし
	受付・時間等	随時 校外に出かける相談への対応日は主に火曜	
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	平成15年度福井県養護学校教育研究大会「教育相談」分科会にて発表	
担当者からの一言	本校のセンター化を考えていく上で滝坂先生を招いての研修会を行いました。そのあとにこんな感想がありました。 「前衛で外に向けての取り組みをする教員と、その教員を支えるために後衛で校内の教育活動がんばる教員というように役割分担ができるといいですね。」 そんな教職員集団による学校作りをめざし、まずは教員一人一人が「自分はこれがしたい」(研修会での滝坂先生の言葉より)と積極的に自分の役割を意識できることを願っています。私は、他機関との連携による早期からの教育相談体制を充実させ、肢体に不自由のある子どもたち、その保護者を支えていくことができるようにしていきたいです。(田辺みちよ)		

学校概要	学校名(学校種)	神奈川県立茅ヶ崎養護学校(知的障害・肢体不自由)	
	設置年月日/校長	平成11年4月1日 後藤誠一(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	小(48名), 中(32名), 高(67名), 施設訪問(5名)	
	教職員数(職種)	109名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 実習教諭, 講師, 看護師)	
	所在地 電話・ファックス URL	〒253-0083 神奈川県茅ヶ崎市西久保29-1 Tel.: 0467-57-5379 Fax.: 0467-57-5371 http://www4.ocn.ne.jp/~c-yougo/	
センター	実施しているセンター的機能の内容	① 教育相談機能 (○)      ② コンサルテーション機能 (○) ③ 指導機能 (－)      ④ 情報提供機能 (○) ⑤ 実践研究機能 (○)      ⑥ 研修機能 (○) ⑦ 施設設備開放 (○)      ⑧ ボランティア養成      ⑨ 地域懇話会	
	本校のセンター的機能の特色	平成11年の開校時より, 障害児・者の豊かな学びや暮らしを支える地域づくりを目的として, 次の視点から活動を展開している。 ○地域の人々や関係機関と, 共に考え協働する関係を作る ○養護学校や障害児教育をできるだけ多くの人に知ってもらう ○児童生徒・保護者・教職員および地域の人々が共に集う機会を設定する ○児童生徒の学習の場や機会を広く地域に求める ○本校の教育資源を地域に提供する ○本校の資源を生涯教育や余暇活動に提供する	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	<p>①～⑨は, センター機能の内容</p>	
教育相談	直通電話	なし	
	受付・時間等	月～金(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く) 予約制: 1こま75分	
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	・「地域における協働の試み」 肢体不自由教育159号(2003. 3月) ・「養護学校の教育相談活動」 養護学校の教育と展望129号(2003. 5月) ・「養護学校の教育相談室と小・中学校との協働」 文部科学時報(2003. 6月) ・「センター機能を促進する校内組織」 特別支援教育No.9(2003) ・「未来の養護学校を目指して」 発達障害研究25巻2号(2003. 8月)	
担当者からの一言	地域のニーズを積極的にキャッチし, できるだけニーズに応じようと努力する姿勢を持った学校が「開かれた学校」なのではないかと考えるに至った。5年間の取り組みを経て, 様々な企画が展開し, 数多くの地域の人々が本校の企画を利用している。ニーズは次のニーズを産んでいるが, ニーズの変化に対し柔軟性を保つことが今後の本校の課題かもしれない。 (瀬戸ひとみ)		

学校概要	学校名(学校種)	長野県稲荷山養護学校(肢体不自由)
	設置年月日/校長	昭和39年9月8日 一之瀬竹治(平成15年度)
	幼児児童生徒数	幼(0名), 小(49名), 中(33名), 高(35名) 計 117名
	教職員数(職種)	98名(校長, 教頭, 舎監, 教諭, 講師, 養護教諭, 養護助教諭, 実習助手, 寄宿舎指導員, 事務長, 事務, 校用技師, 介助技師, 管理栄養士, 給食技師)
	所在地 電話・ファックス URL	〒387-0022 長野県千曲市大字野高場1795 Tel.: 026-272-2068 Fax.: 026-261-3453 http://www.nagano-c.ed.jp/inayou/
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (◎) 2. コンサルテーション機能 (◎) 3. 指導機能 (○) 4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (○) 6. 研修機能 (○) 7. 施設設備開放 (-) 8. その他 ( )
	本校のセンター的機能の特色	専任相談員を中心としたスタッフの関係機関との連携による草の根的なきめ細かな訪問相談と支援
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	
	教育相談	直通電話 なし(相談執務室内に内線及び外線可能な電話を設置) 受付・時間等 電話相談 月・水(土・日, 祭日, 年末年始を除く) 午前10時~12時と午後2時~4時。 来校相談 火・木 午前10時~12時。 訪問相談 金 午前9時から12時。原則として上記の時間帯に実施。
センター機能に関する公表資料(過去3年間)	久保田 純(2003): 医療・福祉・教育が連携した相談支援体制を作る試み, 発達障害研究第25巻, 77-84	
担当者からの一言	平成16(2004)年度に向けて, 上図の校内組織をセンター的機能と特別支援教育コーディネーター(仮称)の観点から再編成に取り組んでいる。(山岡・久保田)	

学校概要	学校名(学校種)	熊本県立松橋養護学校(肢体不自由)	
	設置年月日/校長	昭和40年8月1日 桑原孝二(平成15年度)	
	幼児児童生徒数	幼(一名), 小(25名), 中(10名), 高(27名)	
	教職員数(職種)	98名(校長, 教頭, 事務長, 教諭, 養護教諭, 実習教師, 講師, 非常勤講師, 寄宿舎指導員, 臨時寄宿舎指導員, 事務職員, 技師, 栄養職員, 非常勤調理員)	
所在地 電話・ファックス URL	〒869-0543 熊本県下益城郡松橋町大字南豊崎252番地 Tel.: 0964-32-0729 Fax.: 0964-32-0565 http://www.edu-c-pref.kumamoto.jp/sh/matsuyo		
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (○) 2. コンサルテーション機能 (ー) 3. 指導機能 (○) 4. 情報提供機能 (○) 5. 実践研究機能 (ー) 6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (◎) 8. その他 ( )	
	本校のセンター的機能の特色	センター的機能の一つの部署で担うのではなく, 学校全体で組織的に果たしていきたい, 本校職員一人一人がセンター的機能を担っていききたいという本校なりの考えから, 「センター的機能の分掌部による分担」を進めてきた。日常の業務とセンター的機能を結びつけて考えていったことによって, 一定の成果を上げることができたと考える。 また本校の所在地である松橋町には, 養護学校が3校設置されており, 療育センターや授産施設・更生施設等の社会的資源を有している。それらの関係諸機関, あるいは地域の小・中学校等との連携を重視しながら, 取り組みを進めてきた。	
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	本プロジェクト研究の担当であり, センター的機能の推進役となった研修部が中心となり, 全分掌部で分担して取り組んだ。 <学校内部の充実> ○教務部; 教育力向上を目指す役割 ○生活支援部; 学校間交流と居住地校交流の推進 ○スクールパーク部; 地域との連携 ○寄宿舎; 寄宿舎行事等における地域との連携 <専門機関との連携> ○自立サポート部; 福祉施設や就労関係機関との連携 ○健康安全部; 医療・療育機関との連携 ○研修部; 大学等の専門機関との連携 <対外的働きかけ> ○ICT部; HP等での本校の取り組みのアピール ○研修部; 地域の小・中・養護学校等との連携	
	教育相談	直通電話	なし
		受付・時間等	随時受付
	センター機能に関する公表資料(過去3年間)	・「養護学校の教育と展望」第129号 ・平成15年度熊本県立松橋養護学校研究紀要	
担当者からの一言	本プロジェクト研究への参加は, 本校の取り組みを見つめ直す大きな刺激となりました。ここで得た成果は, 今後の「特別支援教育コーディネーター」の取り組み等と重ねながら, 新たな時代の流れに対応する本校の歩みとして, さらに発展させていきたいと思っております。 (松本 英雄)		

学校概要	学校名(学校種)	兵庫県篠山市立篠山養護学校(肢体不自由)		
	設置年月日/校長	昭和49年4月1日 河南秀和(平成15年度)		
	幼児児童生徒数	幼(4名), 小(14名), 中(5名), 高(20名)		
	教職員数(職種)	65名(校長, 教頭, 教諭, 養護教諭, 臨時講師, 事務職員, 看護師, 介助員, 運転員, 校務員)		
	所在地 電話・ファックス URL	〒669-2300 兵庫県篠山市沢田120番地の1 Tel.: 079-552-5237 Fax.: 079-552-6222 <a href="http://www.hyogo-c.ed.jp/~sasayama-yogo/">http://www.hyogo-c.ed.jp/~sasayama-yogo/</a>		
センター的機能に関する取り組み	実施しているセンター的機能の内容	1. 教育相談機能 (◎)      2. コンサルテーション機能 (◎) 3. 指導機能 (◎)      4. 情報提供機能 (◎) 5. 実践研究機能 (◎)      6. 研修機能 (◎) 7. 施設設備開放 (◎)      8. その他 ( )		
	本校のセンター的機能の特色	篠山市教育委員会との連携に基づき, 市の関連機関や医療及び福祉機関と協力してチームアプローチによる教育相談ができる。また, 市内の幼稚園及び小・中学校との教職員の人事交流によって, 学校間の連携も密になり, 研修への参加や情報の交換等を頻回に行っている。		
	校内組織とセンター的機能に関する校務分掌・機能分担(担当者数)	教育相談部(9人) 就学進路指導部(6人)		
	教育相談	直通電話	なし	
		受付・時間等	水・金(土・日曜, 祭日, 年末年始を除く) 予約制: 1こま60分	
センター機能に関する公表資料(過去3年間)	なし			
担当者からの一言	地域の子ども達への支援を考えると, 教育の分野からだけでなく, 医療や福祉の分野も一緒になり, 連携を深めながらの支援を行うことの必要性を強く感じる。このプロジェクト研究がその端緒となるよう, さらに取り組みをすすめていきたい。(福西 隆弘)			



